

ホーチミンの旧市街地は、ハノイと比べてまだ乱雑の中にも活気を感じた。研修旅行前のベトナムのイメージとオーバーラップしていた。市街地の住宅の間口は、限定され4-5Fの長屋形態のものが多く街中の高層ビルは、銀行系の建物がデザインされ、際立っていた。

ホーチミンから東南にカンザーのマングローブのツアー途中で大きな開発区域を車窓から眺めることができた。帰宅後、ネットで調べると、サイゴン川の西側に位置し100haほどの大掛かりな開発であることが分かった。

(<http://www.vanphathung.com>)

ホーチミンは、河川が多く道路が寸断され、フェリーによる交通手段が多いが、日本企業によるトンネル工事も進んでいる。これにより、さらに道路整備が進み、都市の機能が大きく変わり始めている。

今現在、ベトナムは、共産主義国では、あるが、中国同様、国が大きく変わってきていて、住宅関係の整備に伴い、病院、ショッピングセンター等の大型施設など外国企業の市場参入が盛んで、これに伴い旧市街地周辺のエリアでも小綺麗な建物もいくつも見る事ができ、これから5-10年で大きく変貌していだろう姿を感じた。

